

# 南島原市ニュース

平成28年10月7日

報道関係各位

## 南島原市子ども夢劇場

市内の小学生に生の演劇を鑑賞してもらうことで、芸能や文化の素晴らしさを感じてもらったり、自分の夢に向かって心豊かにたくましく生きていく力を身につけさせること、また、近年、社会問題になっている青少年の「心の欠如」等の問題に対応すべく、青少年の「心の教育」の充実を図るために開催します。

記

- 10月18日(火)14:00～(75分) 布津地区 (世紀の泉)
- 10月19日(水)14:00～(75分) 有家地区 (ありえコレジヨホール)
- 10月20日(木)14:00～(75分) 西有家地区 (西有家小学校体育館)
- 10月21日(金)14:15～(75分) 深江地区 (深江小学校体育館)



担当部署	教育委員会生涯学習課	担当者	細波 雄太
直通	050-3381-5082	E mail	y.saiha@city.minamishimabara.lg.jp
詳しくは			
担当者 連絡先			



平成27年度文化庁文化芸術振興費補助金（トップレベルの舞台芸術創造事業）

福岡の子ども九州 創立30周年記念作品

# このゆびと〜まれ!



作・演出／あさのゆみこ  
音楽／効果／曲尾友亮

美術／山本佐助

小巻三奈

制作／飯塚祐一

絵／よしながこうたく

## 子どもたちの遊びの中にわきおこる想像力 それはまさに生きる力!

### このゆびと〜まれ!



あれ? マモル  
どうしたのかな?

### いざ、無限島へ出発だ! マモルの空想珠を取り戻せ!



ヒロは、小学校1年生。仕事で帰りの遅いお母さんに代わって、近所のはおをさんやしいもんに面倒をみてもらっています。ヒロの目標は、はちまんの倒っている犬の散歩に出かけること。その散歩はヒロの大切な時間でした。そう、ヒロの大好きな空想の時間。あるときは洞窟探検、またあるときはヒーローヒロに大変身!

ある日、クラスで一番頭の良いマモルの様子がおかしいと思ったヒロは、マモルを空想の世界に誘います。喜ぶヒロに戸惑うマモル。さあこの二人、空想の世界でどうなっちゃうの?

あっ!あれは、  
コンドルん!?



スエエの  
魔菓子機は  
いつもにぎやか  
パカパカ



今度はダイジャジャーン!  
無限島は危険がいっぱいだ!!



みつめた!ほくの空想珠!

### 台本ができるまで

今回、台本を書くにあたり小学校の先生方と、お芝居の主人公に近い年齢の男の子たちにインタビューをさせていただきました。先生方には、今回のテーマである学校で感じる授業のお話や、押しつぶされそうな現実と、一生懸命前を向いて夢ごとしている子どもたちのことなど聞かせていただきました。

子どもたちのインタビューはとても美しいものでした。印象的だった事は、「もし、お母さんが事故のボスだったら?」と質問したところ、3人それぞれ様子をのぞかせ、小さめの声で「えっ!」そしてあきらかに動揺し始めたのです。うれしそうに、これには大賛成!しかし、この後がすごい。『いい!でも、お母さんは僕のために怒ってくれたから!』と、お母さんをかばい始めたのです。またまた、大笑い。両親との関係、とくに母親の存在の大きさが感じられました。小学4年生でこんな考え、わかっているのだと本当に驚かされました。

こうしてたくさんのお話やアイデアをいただき、「このゆびと〜まれ!」を書き上げることができました。ご協力いただいた先生、子どもたち、本当にありがとうございました。

作・演出 あさのゆみこ

表紙の絵 よしなが こうたく  
福岡在住の脚本作家。代表作に『給食番長』(小学社)、『ほくだつてウルトラマン』(編談社)などがある。



## 上演にあたって

子どもたちは、空想の世界を遊ぶことや、冒険が大好きです！

時には空を飛んだり、悪者を倒すヒーローになったり、お姫様になったり、海を自由に航海したり・・・  
子どもたちのイメージは無限です。かつて私たち大人が子どもだった頃と同じように・・・

以前、子どもたちの前で数十年前の子どもの頃の話をする機会がありました。野山をかけまわり、山の上にある小学校から木のつるを伝ってターザンのように舞い降り家に帰っていたと話す、今まで静かに聞いていた小3の男の子が突然、そこに連れて行って！と目をキラキラさせて叫んだのです。

たぶん彼の中に、見たことはないけどその風景が広がっていったのでしょう。あの瞳の輝きを今も忘れません。

子どもたちは、現実と空想を行ったり来たりしながらゆっくりと成長していきます。友達と空想をめぐらしながら遊び、より楽しく遊ぶためにルールを作りながら相手とのコミュニケーションを一生懸命計ろうとします。その事は、自分を知り、他人を理解する事にもつながり、人間形成の上でも大きな影響をもたらしていくのだと思います。しかし、現代の子どもたちにおいて、想像や空想をめぐらす空間やその時間に浸る機会は、どれだけ保障されているのでしょうか？

このお芝居は、主人公ヒロの空想力が大活躍します。観ている子どもたちも主人公と一緒に空想の世界を思いっきり遊び、明日への希望に胸を膨らませてもらえたらと思います。

## 子どものいるところどこへでもとんでいく



### 劇団紹介

劇団風の子九州は、1985年劇団風の子より独立して誕生した、九州の福岡に本拠地を置く児童青少年演劇の専門職業劇団です。“子どものいるところ、どこへでもとんでいく”を合言葉に、九州・沖縄各地の街中や山間部の集落、点在する離島を駆け回ってきました。

90年からは国内だけでなく、韓国・中国・インドネシア・パキスタン・インド・オーストラリアなど、アジアを中心に海外公演にも出かけ、多くの人たちとの交流を深めてきています。

2002年からは、韓国の劇団サダリとの合同公演「マンナム」を創り上演してきました。アシテジ（国際児童青少年演劇協会）の国際フェスティバルinソウルでは日本代表としても参加しました。

2015年には、劇団創立30周年を迎えることができました。これからも地域で、“子どもたちと共に未来を創る劇団”として、従来の演劇様式にこだわらず、遊びや日常生活の中から、新しい創造と表現の世界を追求し広げていきたいと思っています。

◆日本児童・青少年演劇団協同組合加盟 ◆全国児童・青少年演劇協議会加盟 ◆アシテジ（国際児童青少年演劇協会）加盟



風の子九州

〒814-0002 福岡市早良区西新5丁目5-13  
TEL 092-841-7889 FAX 092-841-7896  
<http://www.kazenoko-kyushu.or.jp>  
E-mail: info@kazenoko-kyushu.or.jp